

グループホームこまば 木もれ陽

認知症の方が暮らす生活の場
ともに泣いたり笑ったり…
穏やかな日々を積み重ねています

ホーム長の ほっとHOT 通信

『ご利用者が第一』

グループホームとは、
ざっくり言うと9名のご利用者が入所して
生活するところです。
介護保険のサービスは、訪問介護（ホームヘルプ）
や通所介護（デイサービス）等色々ありますが
やることは一つ。それは、**自立支援**です。

人それぞれの自立があり、その人の「有する能力」に応じた自立
を支援していくことになります。「歩くことが出来る人には歩いて
もらう」「洗顔を自分で出来る人には自分でしてもらう」等
シンプルに考えて出来ることはしてもらえば良いわけです。
そして、その自立支援を行うのに大切なのが、**生活習慣を継続で
きる**様にしてあげることです。生活習慣を継続することで、でき
ることも継続できるのです。

自立支援は、勿論、グループホームという入所するサービスでも
同じです。共同生活の場ですが、一人ひとりの自立を促します。
一人ひとりの為に職員がいます。その一人ひとりが9人集まっ
て生活しているだけのことです。

「共同生活だから…」と、ここでの生活を強要してはいけないの
です。それは「介護」の仕事ではなく、「管理」の仕事です。
例えば、排泄の後に、拭いた紙を顔に寄せて見るご利用者がいた
とします。「不潔だから」と辞めさせるのは簡単です。
トイレ内の事だから誰も気付かなかったのでしょうか、それこ
そ長年行ってきた生活習慣だと思えます。

その行為を否定していくと、「なにか別のやり方があるのかしら
ん」と、徐々にどうやって拭けば良いのか自信がなくなっていき
ます。それで、「こうやって拭けば良いんですね」と職員に確認
するようになり、そのうち、拭くという行為ができなくなってい
きます。

いつまでも、元気でいて欲しい。ご自宅で生活ができなくなっ
ても、まるでご自宅のように、ご自身の生活をして欲しい。
それを実現できるホームにしていきます。

ホーム長の熱い思い
を発信します！



グループホームとは

グループホームとは、認知症の症状のある
方が少人数（5～9人）で一緒に暮らす生活の場です。
住み慣れた地域の中で、それまでと変わらない普通の暮
らしができるように…と願ったのが始まりです。
グループホームこまばは、目黒区内 2 番目のグループホ
ームとして 2005 年 4 月にスタートしました。
家庭的な環境のもと、今までの生活習慣に則った家事等
を行いながら生活してもらうことで、その人らしさを支
えていきます。お互いに支えあい、役割を持って生活す
ることで認知症の症状や不安感が軽減されていき、お一人
おひとりが主役となった豊かな生活の実現を目指してい
ます。



洗濯物を干したり



買い物に
出掛けたり



玄関掃除を
したり



バルコニーで
ティータイム



生け花を
楽しんだり



七夕には短冊
に願いを



立花秀樹歌謡ショー

プロの演歌歌手 **立花秀樹**さんが
歌いに来てくれました！
リビングがステージに早変わり。
アンコールを含めて 45 分の熱唱！
さすがはプロ。
歌に話しにと皆を飽きさせない。
事前に作っておいた団扇を振って
歌って盛り上がりました！

